

# 平成21年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	歴史と伝統を受け継ぐとともに、先進的なビジネス教育を融合させ、地域社会をリードする人材を育成する。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくりをとおして、意欲と適性のある生徒の募集に取り組む。</li> <li>基礎、基本を重視した、きめ細やかな「わかる授業」を推進し、学習意欲の向上に取り組む。</li> <li>基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的活動の活性化に取り組む。</li> <li>生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む。</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

学校自己評価						
年度目標				年度評価(3月9日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	地域の中学生が減少していることに加え、本校の魅力が十分に中学生等に伝わっていない。開かれた学校づくりを推進し、意欲と適性のある志願者を確保することが課題である。	開かれた学校づくりと生徒募集への取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>HPの改善や県立学校ニュース等、を活用するとともに学校新聞を地域、関係中学に配布し積極的な情報提供に努める。</li> <li>学校外での学校説明会の開催と進学フェアへの参加。体験入学や学校説明会の実施と毎学期、中学校訪問をおこなう。</li> <li>中学PTAによる高校見学を積極的に受け入れる。</li> <li>外部講師として、地域の人や保護者を招いて事業をおこなう。</li> <li>学校行事や公開講座を市報等を利用してPRする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>前期募集倍率が2学科ともに1.2倍を超えたか</li> <li>各種説明会等への参加者数が10%増加したか</li> <li>受け入れ中学校の数および参加者数</li> <li>生徒アンケートによる外部講師満足度80%以上か</li> <li>学校行事や公開講座の来校者数が増加したか</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>HPの全面改訂、112の県立学校ニュースの掲載、熊商ジャーナルの地域への回覧と114中学に定期的に送付し情報提供に努めたが、1.2倍を超えなかった。</li> <li>体験入学3回、説明会3回の参加者が19.1%増加した。他に外部の進学フェア等に5回参加し、新たに寄居で説明会を2回開催した。</li> <li>6中学230名の参加があった。</li> <li>生徒アンケートの結果では87%の生徒が満足している。</li> <li>文化祭1,261名、公開講座28名の参加で計250名増加した。</li> </ol>	B
2	生徒が自主的に活動できる学習をさらに充実させる必要がある。授業時間を確保し細やかな指導と多様な学習機会を提供し、達成感や成就感を味わわせ学習意欲を向上させることが課題である。	「わかる授業」の推進と学習意欲の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>行事等の調整などにより授業時間を確保する。</li> <li>少人数・習熟度別指導を推進する。</li> <li>計画的、組織的な補習体制を確立し、簿記・情報処理を中心に上位級取得を目指す。</li> <li>「70万人体験活動」を一層推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>行事等の調整などにより授業時間が確保できたか</li> <li>成績優良者と成績不振者の人数の増減</li> <li>各種検定資格取得者率</li> <li>体験授業後の生徒満足度が80%以上か</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業と行事を1日の中に配置することにより授業時間を確保した。</li> <li>1・2学期計優良者19%増加し、不振者2%減少した。</li> <li>簿記2級7.8%、情処2級15.4%取得者率が増加した。</li> <li>第2学年の修学旅行体験活動の満足度は86%であった。</li> </ol>	B
3	生徒の基本的な生活習慣をさらに徹底する余地がある。また今年度、熊谷警察署から自転車マナーアップ推進校を委嘱された。これを機に規範意識の向上と部活動をより活発化することが課題である。	規範意識の向上と自立的活動の激励と推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>定期的に生徒、保護者、職員で登校指導を実施する。</li> <li>警察署の協力のもと交通安全指導をおこなう。</li> <li>組織的な服装、頭髪指導を定期的に実施する。</li> <li>部活動の成績や成果を学校新聞等で賞賛と激励する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻者数が5%減少したか</li> <li>交通安全意識が向上したか</li> <li>服装、頭髪指導を6回実施できたか</li> <li>生徒アンケートで「部活動に積極的に参加して成長できた」生徒の割合が増加したか</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学期に3日間登校指導をおこなったが遅刻者は前年度比9%増加した。</li> <li>関係機関と連携し、本校で交通事故防止運動推進大会を実施し意識向上に努めた。</li> <li>各学期と行事前に服装、頭髪指導を6回実施した。</li> <li>アンケートの結果68%の生徒が積極的に部活に参加している。</li> </ol>	B
4	進路に対する意識が希薄な生徒が増加している。計画的な進路指導体制の充実と適切な進路情報を今まで以上にわかりやすく提供していくことが課題である。	目的意識の確立と進路希望の実現	<ol style="list-style-type: none"> <li>指導計画について年度ごとに検証し、進学・就職の適切な指導をおこなう。</li> <li>学年ごとの進路ガイダンスを計画的に実施し生徒の進路意識の高揚を図る。</li> <li>個人カケを作成し個に応じた進路指導をおこなう。</li> <li>卒業生の追跡調査を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートによる満足度が80%以上か</li> <li>生徒の進路室への来室数が増加したか</li> <li>進路情報管理システムの構築と指導室の整備状況</li> <li>卒業後の早い時期での進路変更人数の把握</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>就職内定率は100%であり進学においてもほぼ希望の進路が決定した。生徒アンケートの結果、ガイダンスや分野別指導の全ての項目で約90%の満足度を得た。</li> <li>進路部へ進路相談に来る生徒が増加した。</li> <li>個人進路カケを作成した。</li> <li>年度末に調査をおこなう。</li> </ol>	B

学校関係者評価	
実施日	平成22年 3月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>新しい広報活動も積極的に取り入れ一定の成果があったと思われるが、結果がいま一歩である。今後は、今年度に取り組んだ活動について内容面をより充実させるように、以下のことをさらに検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>結果が出なかった原因が、どこにあるのか分析する。</li> <li>学校の新たな魅力づくりを検討する。</li> <li>学校説明会に在校生をできる限り活用することで工夫をする。</li> </ol>	
<p>家庭学習の時間を確保するように指導するとともに、以下のようなことにも取り組む必要があるのではないかと。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>検定対策等について、クラスの枠を超えた指導体制を確立させる。</li> <li>学習内容の理解度が低い生徒に対するフォローを組織的におこなう。</li> </ol>	
<p>遅刻しているのは、特定の生徒なので、その生徒にあった対応が必要である。また、部活動の活性化を図る必要がある。以下のことなどを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>生徒会で遅刻防止キャンペーン等を実施してみる。</li> <li>部活動についても参加を促したり賞賛する活動をする。</li> </ol>	
<p>進路指導を学校任せにしている保護者が多い。また、進学についても2年生の末では遅いのではないかとという危惧がある。以下のことで、保護者と生徒に働きかける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>保護者に早めの情報提供をおこない進路についての理解と協力を得る。</li> <li>1年生の末から大学見学等の指導を実施し、「このようなところに進学したい」という気持ちを起こさせる。</li> </ol>	

